令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

# 「　今、自分にできること　」

愛媛県　宇和島市立結出小学校　５年　宮本（みやもと）　夏胡（かこ）

平成30年の６月の終わりから７月８日まで記録的な豪雨が西日本をおそった。この豪雨により、多くの土砂災害や浸水被害が起こり、多くの大切な命がぎせいになった。

７月８日、家でテレビを見ていると今まで見たことのない映像が目に飛び込んできた。

それは、私たちの市でびっくりした。特に吉田町では、いくつもの山で土砂災害が起き、大洲市では、画面に映る町全体が茶色い濁った水に浸かっていた。他の地域でも多くの被害が出ていることがニュースで次々と報道されていた。これまでに大雨の被害は見たことがあったが、自分が住んでいる地域から近い身近な場所での被害にとても不安だったし、心配だったのを覚えている。

家では、庭に水が入ってこないようにお母さんが土のうを並べていた。前に一度水が入ってきたことがあったからだ。しかし、キッチンの少しのすき間から水が入り込んできた。急いでタオルでおさえて、なんとか浸水を防ぐことができた。強い風も吹き、ガタガタと音を立てることもあったが、大きな被害はなかった。

わが家に大きな被害がなかったと安心していたけれど、身近な地域では大きな被害となっていた。死者が何百人となっており、まだ見つかっていない行方不明の方も多くいた。数日の雨でここまで大きな被害が起こるとは思っていなかったのでおどろいたのと同時に近くに住んでいる人がぎせいになったことを知り、心が痛んだ。

でも、悲しむばかりではなく、自分にもできることはないだろうかと思った。私は人を助けることが好きなので、ボランティア活動をしてみたいと思っていた。しかし、あまりに被害が大きく、子どもの私では役に立たず、かえってじゃまになってしまうのではないかと思っていた。でも、そんなとき、私にできることが見つかった。コンビニのレジに募金箱があったのだ。そこには「西日本豪雨災害募金」「西日本豪雨で被災された方々のもとへ届きます。」と書いてあった。たくさん募金できるわけではないが、これは私ができることだと思った。「被災した方々へ役立て！役立て！」と願いながら募金をした。それからも直接被災地に行くことはできなかったけれど、募金箱がある度に少しずつ募金をしていった。小さなことだとは思うが、こういう小さなことの積み重ねで被災した地域やそこに住む人々が少しでも早く元の生活にもどるための手助けになっていくのだと思う。

自然災害が起こることは、誰のせいでもない。仕方のないことだ。そう分かっていても、起こってほしくないと思う。自然災害は大切な家族をうばい、住む家をうばっていくからだ。自然災害を止めることはできない。でも被害をおさえることはできることが分かった。それは、今年の七月に県の砂防課の方に来ていただき、砂防学習会を行った時だった。そこで土砂災害の怖さを知ると共に土砂災害にはそれぞれ予兆があり、それに一早く気付き避難することが大切だと学んだ。みんなが災害に対して正しい知識を持って、避難することができれば被害は減らすことができるのではないかと思う。また、一人一人が防災グッズを用意したり、避難場所、避難ルートを家族で決めたりすることが大切だ。そして何より大切なのは自分の命は自分で守るという気持ちだ。

災害はいつ来るかわからない。命をしっかりと守ることができるようにこれからも様々な災害について学習したり、家族や学校のみんなで話し合ったりしながら、災害に立ち向かい自分の命を守っていきたい。西日本豪雨は悲しいこともたくさんあったが、学んだこともたくさんあった。この経験を無だにするのではなく、次に生かせるように自分にできることに取り組んでいきたい。